

(様式)

令和5年度 学校園評価 学校園関係者評価書

| | |
|------|-----------|
| 学校園名 | 三木市立三樹幼稚園 |
|------|-----------|

1 学校園教育目標

○健康でがんばる子(・強い体と豊かな心をもつ子・何事にも最後まで頑張る子)
 ○遊びを考え出す子(・自分から進んで遊ぶ子・友だちと一緒に工夫して遊ぶ子)○助け合う子(・友だちの気持ちがわかる子・友だちと力を合わせる子)

2 本年度の重点目標

○これまで・今後の学びを見据え、一人一人の発達段階や幼児理解を踏まえた支援の充実をめざしながら、幼児教育の中で意図した学びを育む。
 ○仲間とともに活動する楽しさを味わえるようはたらきかけ、自分から積極的に友だちとかかわろうとする気持ちを育てる。
 ○身近な自然とかかわり、友だちとともに感動したり気持ちを伝え合ったりしながら豊かな感性と想像力が育つ教育・保育をすすめ、学びの基礎を培う。

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

| 評価の観点 | 評価項目(取組内容) | 取組(達成)の状況 | 評価 | 改善の方策 |
|-----------------|---|--|----|---|
| 教育課程・指導 | ○子どもたち一人一人の発達段階や幼児理解を細やかに把握し、個々に合わせた指導を心掛ける。 ○保育内容や普段の生活の中で、子どもたちの学びや意義を意識してはたらきかける。 | ○降園後の打ち合わせや職員会議の中で、常に子どもたちの成長の過程を確かめ合い、育ってほしい目標像を共通理解している。その中で職員それぞれの持ち味を生かした様々なアプローチで個々の目標が達成されるよう丁寧にはたらきかけることを心掛けている。 ○活動一つ一つに意味やねらいを意識して取り組み、深い学びに繋がるよう意識している。特に今年度は科学に関する子どもの興味・関心を広げた取組で、ソニー幼児教育支援プログラムに入賞した。 | A | ○今後も全職員が全園児の保育にあたる気持ちで取り組み、子どもの良さも職員の良さも認め合い、生かしながら幼児教育をすすめていきたい。 ○子どもの興味・関心がより主体的に発展していくよう、幼児理解とともに保育者の言葉がけやかかわるタイミングなどにも留意していく。 |
| 道徳・人権教育 | ○遊びや生活の中に必要なルールや善悪の判断があることに気づき、心掛けようとする。 ○飼育栽培や自然の変化などを通して思いやりの気持ちや協同する態度を育てる。 | ○ふわふわ言葉とちくちく言葉などといった子どもに分かりやすい内容や話し合いをしながら、相手がどのように感じるかということに気づけるようその都度話をし、子どもたちの成長の過程を保護者にも伝えていこう心掛けた。 ○降園後の遊びでのトラブルが増加しており、翌日以降園でも指導・援助を行うことがあったが、その場にはないため解決の限界もあり、難しさを感じる。 ○自分たちで野菜を育てたり、チョウチョの幼虫を成虫にふ化させたりする中で、動植物の成長に気づき、大切に世話しようとする姿が見られた。 | B | ○子どもたち自身が自ら感じたり、考えたり、行動したりできるようなはたらきかけを常に心掛ける。 ○保育者自身の道徳観や人権感覚も研ぎ澄ますことができるよう、常に研修を重ねていきたい。 ○実体験を大切に、そこから感じたことを言葉や身体表現等で伝え合いながら、より深く子どもたちの心に残したい。 |
| 特別支援教育 | ○保護者に寄り添いながら、一人一人への支援の方向性を見極め、成長へと繋げる。 ○関係機関・専門機関との連携をしながら、支援の方向性を確かにする。 | ○個々の伸びや課題を職員間で共有し、個に応じた支援を心掛けている。その思いを保護者とも共有しながら、ともに同じ方向に向かって子どもの成長を支えていけるようはたらきかけている。 ○市教委や関係機関と連携をとり、より専門的な指導助言をいただきながら子どもたちの成長を確かなものにするよう取り組んだ。 | B | ○保護者との連携を密にしながら、子どもの成長とともに喜び合える関係を築いていきたい。 ○関係機関等いろいろな意見、見解を聞きながら、その子どもにとっての最善は何かを常に求めていけるような姿勢をめざす。 |
| 家庭・小学校との連携 | ○「キラリポイントシート」をはじめ、行事や参観、クラスだより、HP等の中で子どもたちの学びの場面を伝える。 ○保育内容の中で小学校と繋がる場面を捉え、小学校と交流していく機会を積極的に設ける。 | ○前述の内容に加え、お迎え時にドキュメンテーション掲示も取り入れ、活動の旬を保護者に伝えられるよう努めた。 ○保育活動の中で、親子宿題という形で保護者とともに家庭でも感じたり考えたりする機会を設け、子どもたちの学びを担う役割を手助けしていただいた。 ○コロナが明け、講演会や業間交流、昔遊びなど少しずつ以前の幼小交流が復活しつつある。また今年度は新たに子どもたちの食育活動から給食室との交流もできた。 | B | ○今後も様々なアプローチから子どもたちの活動内容や思い、学び等を発信していきたい。 ○以前からの幼小交流を取り戻すだけでなく、その年の子どもたちの興味・関心を生かした交流に発展できるよう、教師同士も連携をとりながらすすめていきたい。 |
| 健康・安全教育 防災教育 | ○避難訓練の意味や必然性を知り、子どもたちが自らの命を大切にしよう意識をもてるようにする。 ○身体を使って遊ぶ遊びを意図的に環境設定し、健康な心と身体の育成をめざす。 | ○本園は浸水想定区域に指定されているため、今年度は園舎裏の用水路の増水に備えて市職員が作業されている姿を見たり、緊急時の洪水に備え2階に避難して備蓄食を食べたりして実体験を重ね、災害意識を高めることができた。 ○普段の戸外遊びに加え、からだぐんぐんタイムを設け、日常生活では動かしにくい部位や幼児期に獲得したい動きなどに楽しみながら行える運動遊びを考え、継続的に取り組んだ。また、チャレンジタイムも設け、竹馬や縄跳び等主体的に挑戦できる遊びに取り組み、達成感や自信を味わえるようはたらきかけた。 | A | ○様々な想定避難訓練があるが、自分の命を大切にすること、真剣に取り組むことはどの避難訓練にとっても共通する目標である。今後も子どもたちに伝え続けていきたい。 ○4～6歳の子どもたちにとって、コロナ禍で思うように身体を動かして遊べなかった約3年は大きい。遊びの中で培われている身体の動きの意味を意識しながら運動遊びをすすめていきたい。 |

4 自己評価方法の適切さについての学校園関係者評価

○昨年に引き続き、バランスの良い5項目の評価設定がされており、保護者の方、職員へのアンケート結果も客観的な分析のもと適切に反映されていた。
 ○子どもたちの成長の過程を常に職員間で観察し、それを保護者とも共有し、取組の達成状況を丁寧に観察し、分析を行い、自己評価がなされている。

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

| 学校園自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価 |
|--|
| <p>評価Aは適切である</p> <p>○この項目と保護者アンケートでは、肯定的な回答の割合が多く、保護者と職員の信頼関係が大変良好であることが分かる。 ○全職員が全園児のことを共通理解していることは、通わせる親にとっても安心であり、子どもにとっても安心して過ごせる場所となっている。 ○子どもたちの小さな興味や感情の芽生えを見逃さず拾い、発展させた結果が受賞に繋がった。就学前にいろいろな体験をすることが学習にも繋がるので今後も継続してほしい。</p> |
| <p>評価Bは適切である</p> <p>○園の環境を活用しながら、子どもたちが興味を示した様々な生き物の飼育や栽培を実践することにより、命を意識し感じるよう導いている。生き物を思う心は、いずれは人と人、お互いを想う心に育っていくと思われる。 ○保護者アンケートの回答も肯定的である。 ○自分の気持ちだけでなく、相手の気持ちになって考えさせ、行動を見守っているところが良いと感じる。</p> |
| <p>評価Bは適切である</p> <p>○一人一人の子ども成長や課題を丁寧に観察し、特別な配慮が必要な子どもへの支援も保護者と連携し、必要であれば専門の指導を受けている。 ○アンケートの「分からない」の声への対応も素早く、外国籍の園児にも丁寧に配慮されていると分かった。子どもたちはもちろん保護者の思いをおいていかない取組をこれからも期待する。 ○自然と子ども同士で助け合っている場面が多々あるように感じる。それは職員が日々そういう姿を見せられているからだと思う。 評価Aでも良いと考える ○子どもたちの地域行事への参加や作品展発表など、地域の方との交流の機会を作り、ふるさとを愛する心を育む園外活動などに積極的に取り組んでいることなど、もう少し高い評価でも良いと感じる。 ○日々の活動の様子などをドキュメンテーション掲示、キラリポイントシートの活用で常に保護者に発信されていること、各家庭との連携、小学校との交流など、いずれとも良い関係が築かれている。 ○ドキュメンテーション掲示等でその日の様子分かりやすく、家庭での会話に繋がった。 ○小学校との交流はできる範囲でできていたが、今後さらに増えることを期待する。</p> |
| <p>評価Aは適切である</p> <p>○幼稚園自体が浸水被害に遭う可能性があることを子どもたちに気づかせ、避難訓練と実体験を実施したことは意義がある。 ○楽しみながら運動遊びをしたり、挑戦したりする活動は非常に意味がある。 ○運動遊びなど様々な工夫で子どもたちの身体能力を伸ばし、さらに災害への想定と意識を高め、身を守ることに繋がる指導が行われている。 ○身体を動かして遊ぶことが身体の成長だけでなく、ルールを守ったり、友だち関係を築いたりすることに繋がっている。</p> |